

「TKCタックスフォーラム2023」の開催について

令和5年10月20日(金)に、東京・港区の東京プリンスホテル鳳凰の間において「TKCタックスフォーラム2023」を開催いたしました。今回で19回目の開催となる「TKCタックスフォーラム」は、平成16年(2004年)に第1回が開催され、毎回、職業会計人の皆さまにとって参考となる事柄をテーマとして企画し実施してまいりました。今回は、大企業の経理財務担当幹部の方々、また共催の公益財団法人租税資料館のご協力を得て、学術関係者や職業会計人を目指す学生等にも広く参加を呼びかけました。昨年に引き続き、ハイブリッド方式により行い、会場参加者約300名、オンライン参加者約370名、計670名の方にご参加をいただきました。

主催者を代表して、共催の公益財団法人租税資料館、後援のTKC全国会並びに講演や研究発表をお引き受けいただいた皆さまのご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。

本フォーラムは3部構成で行われ、午前の部は、「消費税法におけるインボイス制度導入の影響と課題——職業会計人の職域防衛と運命打開を目指して」と題して、TKC四国会研究グループの皆さまからインボイス制度導入による税実務への影響及び今後の職業会計人のあり方に関して、パネルディスカッション形式で研究発表がなされました。

午後の部お一人目は、「税制の当面の諸課題」と題して、財務省大臣官房審議官(主税局担当) 中村英正様から、経済社会の構造変化に対する各税目の果たすべき役割を見据えた税制の当面の諸課題及び税財政についての国民との向き合い方などについてお話しいただきました。午後の部お二人目は、「租税法主義の意義と機能について考える」と題して、東京大学大学院教授神山弘行様から、租税法における重要な概念である租税法主義の意義や機能について近年の裁判例及び先端の理論的見地から、お話しいただきました。

TKC税務研究所は、今後とも「TKCタックスフォーラム」の開催をはじめとして、信頼できる税務情報等の提供を通じて、職業会計人の皆さま、学術関係者の皆さまのお役に立てるよう微力ながら努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

TKC税務研究所長 谷口裕之